

Andorra

ア
ン
ド
ラ

Text : **Max Frisch**
Bearbeitung & Regie : **Tanaka Atsuya**
Übersetzung & Dramaturgie : **Ichikawa Akira**
Dramaturgie : **Kashiwagi Kikuko**

Schauspieler :
Hayashi Hideyo
Nishida Masahiko (Yukisya)
Ueda Taizo (MousePiece-ree)
Takaguchi Shingo
Abe Tatsuo
Izumi Keiko
Kuramasu Tessyuu (Minamimorimachi Grasshoppers)
Ishihata Tatsuya (Tokumei Gekidan)
Tamura K-1
Hinaga Takako
Minamisawa Atsuko (Theatre EN)
Kumamoto Akitoshi (Milaitanteisha)
Shanghai Taro (Shanghai Taro Company)

Komposition & Klavier : **Semba Hirofumi**

Sonderrolle : **Mori Kazuo**

2018年3月7日(水) ▶ 11日(日)

一心寺シアター倶楽

あんたたちは人殺し、
雪のように白いアンドラ、
私はあんたたちをみんな白く塗る。

Ihr Mörder,
ein schneeweißes Andorra,
ich weißle euch alle.

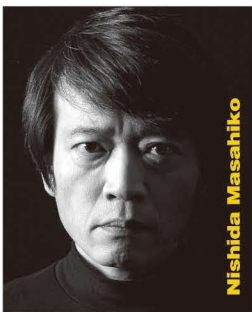
<http://seiryu-theater.jp>

これから起こることは
すべて、もうすでに起こったことなんだ。

Schauspieler



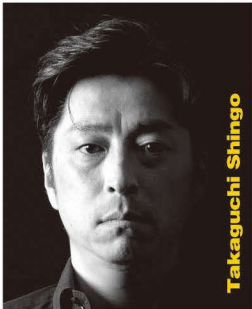
林 英世



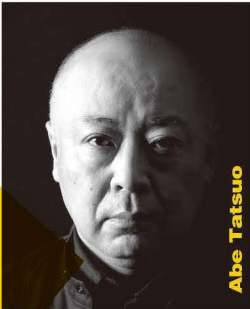
西田政彦
遊気舎



上田泰三
MousePiece-ree



高口真吾



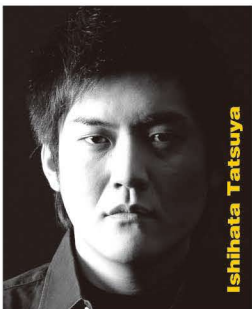
阿部達雄



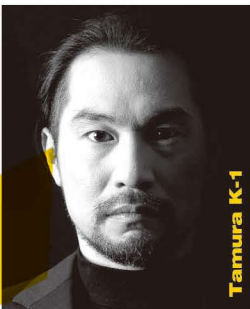
泉 希衣子



倉増哲州
南森町ガラスホッパーズ



石畑達哉
匿名劇場



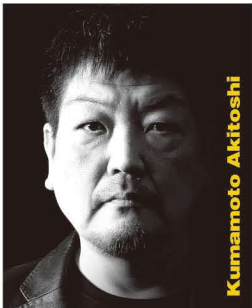
田村 K-1



日永貴子



南澤あつ子
劇団 EN



隈本晃俊
未来探偵社

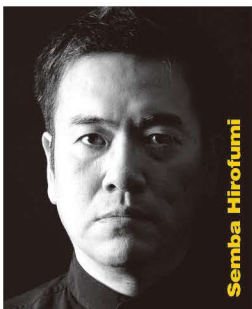


上海太郎
上海太郎カンパニー



音楽・演奏／仙波宏文

Komposition & Klavier



音楽・演奏／仙波宏文

Erzählung

舞台はアンドラという国（実在する同名の国とは無関係の架空の国）。青年アンドリは、ユダヤ人であるという理由でアンドラ人から差別を受けている。しかしアンドリはユダヤ人ではなく、アンドラ人の教師と“黒い国（＝ナチス・ドイツを連想させる）”と呼ばれる隣国の女性との間に出来た子だった。町でも清廉潔白な人物として通っていた教師（＝父）は、“黒い国”の女性との関係がばれることを恐れ、実の息子・アンドリを「瀕死の状態だったユダヤ人の子を救ってきた」と言い、養子として育てることで世間の目をあざむいてきた。その事実を知らず、成長した、青年アンドリは教師（＝実父）の娘・バルブリーン（＝実妹）と恋におちる。また、指物師（＝家具職人）志望だったアンドリは仕事先でも、ユダヤ人差別を受けている。仕事仲間たちは、アンドリを誹謗中傷し、彼の職人としての道を妨げる。皆と何一つ変わらないのに「お前は違う」と異端の烙印を押され、仕事もうまくいかないアンドリは次第に自暴自棄になっていく。そして、バルブリーンとの結婚を教師に拒絶されたアンドリは、自己否定の極に達する。

“黒い国”からアンドリに会いにやってきた実母は、アンドラ人に石を投げられ、殺されてしまう。そしてアンドラ人は「アンドリが石を投げるのを見た」と言い回り、アンドリはまたも、いわれのない罪を着せられる。やがて、アンドリは自分の出自を知ることになるが、「ユダヤ人だから…」という言葉で全てが片づけられてしまう現実に絶望し、自分が「ユダヤ人ではない」という真実を受け入れず、“黒い国”が進軍し、ユダヤ人の公開処刑を求めてきた際にも、少しの抵抗もせず連行されていく。

Du sollst dir kein Bildnis machen

汝、偶像をつくるなかれ

「高橋さんって、B型でしょ、血液型。」「そやけど、何で?」「見てたら分かりますよ。だって、好き嫌いハッキリしてますもん。」たとえば、こんな風景、よく見かけませんか。血液型で性格や人柄が分かるとは到底思えませんが、他者とのコミュニケーションを滑らかにする一つの話題と考えれば、それもまたありなのかなとボクは考えていました。しかし、今回の上演作品『アンドラ』を書いたフリッシュという作家は、『日記 1946-1949』の中で、これを真っ向から否定します。「汝、偶像をつくるなかれ」と。確かにそうなのかもしれません。「型にハマてとらえる」ことで、ボクたちは相手との関係において安心しようとしませんが、これは同時に偏見などの危険を伴います。また、悪気なく、むしろ親しみを込めて話しかけたこの言葉が相手の内面形成や行動に影響するかもしれません。つまり、B型だろうと言われた人が「自分はB型だから、こうなのだ」と考えたり、「B型らしいとされる性格」を強調しようとするかもしれないということです。ナチス時代を生き抜いたフリッシュは、こうした偶像（イメージ・先入観）から生み出される様々な悲劇を目の当たりにし、「偶像を持つことの危うさ」を訴えたかったのだらうと思います。

今回の作品『アンドラ』は、架空の小国に起こる反ユダヤ主義を扱っています。一見すると、あまり馴染みのないテーマのようですが、ボクたちの暮らす社会とも大いに共通点が見出せます。ボクたちの持つ中国・韓国・北朝鮮へのイメージ、在日外国人への眼差し。そして、難民を受け入れないこの国のことなど、この作品を通して、考えられることもたくさんあります。「汝、偶像をつくるなかれ」。後年、フリッシュはこの言葉を、世界との理想的な関係として変奏していきますが、ボクは、半世紀以上前のフリッシュの「寓意世界」を《世界の今》を見つめ直すキッカケにする、そんな作品に創り上げたいと思っています。ご期待ください。

田中孝弥

Max Frisch Profil

マックス・フリッシュ（1911～1991）

スイスの作家・建築家。チューリッヒ生まれ。チューリッヒ大学でドイツ文学を学ぶが、父の死をきっかけに、学業を中断。スイスの新聞“Neue Zürcher Zeitung”などでフリージャーナリストとして活動する。その後、チューリッヒ工科大学に再入学し、建築を学ぶ。第二次世界大戦が勃発し、毎年、平均29日間の兵役に就く。兵役休暇中に建築学の学士号を得て、建築と文学の兼業生活が始まる。1945年、チューリッヒ劇場にて、劇作家としてのデビュー作『ほら、また歌っている』が初演される。小説『シュティラー』（1954）にて、世界的成功を収め、作家に専念する。チューリッヒ劇場にて、『ピーターマンと放火犯人』（1958）・『アンドラ』（1961）を初演。寓意劇という形式を通じ、ナチズムのような災いを招来した市民社会のメンタリティに対する批判を、スイスだけではなく、あらゆる社会にあてはまる形で展開し、第二次世界大戦後のドイツ語圏演劇において、一時代を築く。戯曲の他、小説『ホモ・ファアベル』（1957）『わが名をガンテンバインとしよう』（1964）などを執筆。その他にも短編小説や散文、日記も発表している。

清流劇場 2018年3月公演『ANDORRA アンドラ』

2018年 3月 7日(水) 19:00
8日(木) 19:00
9日(金) 19:00
10日(土) 15:00
11日(日) 15:00

★各回、開演7分前より田中孝弥によります《ピフォアトーク》を行います。
※日本語による上演です。ドイツ語の字幕はありません。ohne deutschen Untertitel

■入場料金／日時指定・自由席

一般前売：4,000円 当日：4,300円 ペアチケット：7,600円
U-22：2,500円（22歳以下の方を対象。要・証明書提示）
シニア：3,800円（65歳以上の方を対象。要・証明書提示）

※ペアチケット・U-22・シニアは、前売発売のみとなります。
※開演1時間前より整理券を発行、開場は開演の30分前です。
※小学生以下のお客様はご入場になれません。
※作品上演中のご入場は制限させていただきます場合がございます。
※会場内での飲食喫煙・写真撮影は禁止です。

- 当日券のお客様は、開演10分前からのご入場となります。
- 当日精算券ご利用のお客様は、あらかじめお名前とご来場日時・人数・券種（一般・ペア・U-22・シニア）を劇団宛（info@seiryu-theater.jp）にご連絡下さい。ご連絡がない場合は、開演10分前からのご入場、料金は一般前売料金のみのお取り扱いとなります。

■チケット取扱い／清流劇場
web：http://seiryu-theater.jp
fax：06-6429-8387

※観劇のご予約は、ウェブサイト内の「ご予約フォーム」にて、お名前とご来場日時・券種（一般・ペア・U-22・シニア）・枚数等をご入力ください。
当日、受付にて代金とお引き替えにご入場いただけます。
※お客様が日時指定をされない場合は、開演10分前からのご入場となります。
※faxでのご予約も受け付けております。

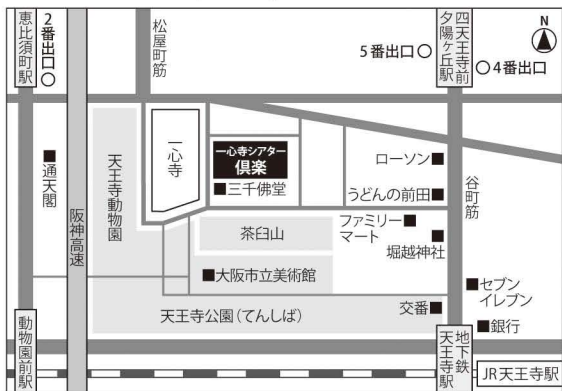


Sonderrolle



特別協力／森 和雄

■会場／一心寺シアター倶楽 大阪市天王寺区逢阪 2-6-13 B1F
tel：06-6774-4002 http://isshinji.net/kura/index.html



●各線「天王寺駅」、地下鉄谷町線「四天王寺前・夕陽ヶ丘駅」、地下鉄堺筋線「恵美須町駅」より、徒歩約10分。 ●お客様用駐車場はございません。お車でお越しの場合は近くのコインパーキングをご利用下さい。

■お問い合わせ／清流劇場 e-mail：info@seiryu-theater.jp

清流劇場ウェブサイト：<http://seiryu-theater.jp>

清流劇場ウェブサイトでは、過去の作品のダイジェスト映像や舞台写真を公開しております。是非、ご覧ください。

■メンバー募集

清流劇場の活動に興味のある方、俳優・スタッフに興味のある方は、劇団までご連絡下さい。 連絡先：info@seiryu-theater.jp

制作／永朋
企画／清流劇場

後援／在日スイス大使館



芸術文化振興基金助成事業



大阪市助成公演